

東北大学医学部保健学科

同窓会新聞

保健学専攻大学院に

博士課程設置!

このたび東北大学大学院医学系研究科保健学専攻に大学院博士課程が設置されることになりました。

博士課程設置に携わった先生の一
人である保健学専攻看護アセスメン
ト学分野の丸山良子先よりごあいさ
つを賜りました。

ごあいさつ



表1 保健学専攻博士後期課程教育課程

コース	領域
看護学	基礎・健康開発看護学
	家族支援看護学
放射線技術科学	医用情報技術科学
	生体応用技術科学
検査技術科学	基礎検査医科学
	臨床検査医科学

医学系 研究科保健学専攻 博士後期課程の設置について

医学系研究科保健学専攻
看護アセスメント分野
丸山良子

平成二十二年四月、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程(三年)の教育が開始されます。平成二十年の博士前期課程設置に始まった保健学専攻の大学院がこれで完成することになります。保健学専攻の博士後期課程の設置は、博士前期課程(二年)に引き続いて、保健学の教育者・研究者として優れた人材および高い研究能力を持つ実践的指導者を養成するためにどうしても必要でした。保健学専攻に博士後期課程が設置されたことにより本学医学系研究科は、既存の医科学専攻、障害科学専攻に保健学専攻が加わり、三専攻体制になりました。

保健学専攻博士後期課程の入学定員は一学年十名で、一月二十八日に入学試験が終わり、合格者が決定しました。合格者の顔ぶれを見ると、博士前期課程の修了者、社会人など、保健学専攻の未来を象徴する多くの有能な人材が集まり今後が楽しみです。

博士後期課程の概要は、おおよそ次のようになります。大きく看護学、放射線技術科学、検査技術科学の三コースから構成され、看護学コースには、基礎・健康開発看護学と家族支援看護学、放射線技術科学コースは、医用情報技術科学と生体応用技術科学、検査技術科学コースは、基礎検査医科学と臨床検査医科学のそれぞれ二領域で構成されます(表1)。博士後期課程の授業科目は、共通科目群、専門科目群、特別研究科目

表2 保健学専攻博士後期課程授業科目

科目群	授業科目
共通科目	共通必須科目 健康科学論
	共通選択科目 看護学方法論、看護システム看護論、分子医科学、社会・環境医学、先端臨床医学
専門科目	看護学コース 基礎・健康開発看護学セミナーⅠ 基礎・健康開発看護学セミナーⅡ 家族支援看護学セミナーⅠ 家族支援看護学セミナーⅡ 基礎・健康開発看護学特論 家族支援看護学特論
	放射線技術科学コース 医用情報技術科学セミナーⅠ 医用情報技術科学セミナーⅡ 生体応用技術科学セミナーⅠ 生体応用技術科学セミナーⅡ 医用情報技術科学特論 生体応用技術科学特論
検査技術科学コース	基礎検査医科学セミナーⅠ 基礎検査医科学セミナーⅡ 臨床検査医科学セミナーⅠ 臨床検査医科学セミナーⅡ 検査医科学特論 検査医科学実験トレーニング
特別研究科目	保健学論文研究

群の三科目群から構成され、修了にはいわゆる学位論文にあたる論文研究を含めて十六単位の取得が必要です。また優れた教育者・研究者の養成には、広い視野と問題意識の獲得が重要であるとの考えから、三コース共通の健康科学に関する科目も用意されています。さらに、高度な研究を遂行するためには、その基礎となる医学・医療に関する知識も必要になるため、医学系研究科内の医科学専攻との共同による共通選択科目を五科目設け、幅広い分野の授業科目から選択履修できる配慮もされています。専門科目群は、各コースの領域別にそれぞれ三科目が設定されています(表2)。修了要件単位以外にも、外国人講師によるセミナーや国際学会への参加を促進し、研究成

果を世界に発信できる体制をつくることも念頭においています。社会人学生には、長期履修制度、昼夜開講夏期・冬期集中講義など、常勤で働きたいから学べる体制が組まれ、さらに東北大学インターネット・スクール(ISTU)による科目選択も可能な環境を提供しています。必要な単位を修得し、論文審査および最終試験に合格すると、看護学コース修了者には博士(看護学)、放射線技術科学または検査技術科学コース修了者には博士(保健学)の学位が授与される予定です。東北大学の理念である「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」に基づき、保健学専攻の博士後期課程は、保健学に関する世界的水準の教育・研究拠点として、豊かな人間性と高い倫理観を持つ研究者・教育者、高度化する保健・医療に対応できる実践的指導者の育成を図るために、教員と学生が一丸となり邁進し、日本のみならず世界の看護学、保健学を牽引できる人材を輩出したいと考えています。

発行人 進藤千代彦
発行所 東北大学医学部保健学科
仙台市青葉区星陵町2の1
編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会
高根侑美、水口早苗、永井瑞希、千葉春香、柴崎瑛子、武石陽子

PHILOSOPHY & PURPOSE MESSAGE

Educational Philosophy

【理念】

医学及び保健学の先進的、学際的及び創造的な研究を推進し、国際的に通用する優れた研究者並びに高度な医学的知識及び技術並びに豊かな人間性を備えた医療及び保健の指導者及び実践者を育成し、もって日本及び世界の人の健康及び福祉の増進に寄与する。



Educational Purpose

【教育目標】

1. 学問に対する強い探究心を持ち、常に目的意識を持って医学及び保健学の領域の諸問題の解決に挑戦して問題解決を成し遂げることができるのみならず、問題を見出すことができる人材を育成する。
2. 最先端の専門的知識を備え、世界水準の研究を理解するとともに、新たな発見に基づき、未知・未踏の研究領域に取り組み創造力と行動力のある人材を育成する。
3. 外国人や社会人に対する門戸を開放し、国内外で幅広く活躍できる人材を育成する。
4. 国際的視野と幅広い教養と豊かな感性に支えられた倫理性を持ち、かつ、高度な専門的知識の実践により、健全な地域社会と国際社会の形成に貢献する人材を育成する。

次世代の医学・医療の発展を担う礎となる
気概あふれる若者へ



山本 雅之
医学部学長
東北大学学長

東北大学は、講義から「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を理念としています。私たち医学系研究科は、この理念に基づいて、「医学の先進的、学際的、創造的研究を推進し、国際的に通用する優れた研究者並びに高度な医学的知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた医療指導者・実践者を育成し、もって日本と世界の人の健康と福祉の増進に寄与する」ことを使命としています。近年、国立大学の法人化や大学改革の進展をはじめ、高等教育機関の改革が急速に進んでいます。また、東北大学大学院医学系研究科は、高度医療技術とその臨床応用、感染症や環境汚染のような地球規模での健康課題、山積している難病に日々取り組まねばなりません。しかし、私は、柔軟で広い視野と豊かな感性に支えられた倫理性を持ち、自由な発想力から根源的知識の礎を築けるような大学院生が、医学・医療のエキスパートである教育者と共にこれらの難問の解決の糸口を見つけてくれるものと確信しています。本研究科は学問に対する強い探究心を育み、常に高い目的意識を持ち、問題解決に取り組めることができる人材育成を目標としています。また、最先端の専門知識を備え、世界水準の研究を理解すると共に、未知・未踏の研究領域に挑戦する想像力と行動力のある医療専門職者、研究者の養成にも尽力しています。東北大学大学院医学系研究科に、次世代の医学・医療の発展を担う礎となる、気概あふれる若人国内外から集うことを期待しています。

東北大学大学院医学系研究科の3つの特徴

多様性 Diversity
様々なバックグラウンドを持った方が入学し、

柔軟性 Flexibility
従来の学問の枠に収められず、主体的かつ柔軟に学び、

可能性 Potentiality
これまでない多彩な進路を開拓して行っています。

修士課程(博士前期課程)2年の課程(学位)の定員は52名と全国平均の2倍で、入学者の実に64%が医学系学部以外から進学し、文学系部からの進学も1割あります。博士課程(後期3年の課程)でも58%が東北大学医学部以外の出身者で、医学系研究科では多様な背景と共に学ぶことができます。出身者からは、最先端の知識を備え国際社会で活躍できる研究者、高度な専門的・実用的知識をもった医師やコメディカルスタッフなど多岐にわたって、優秀な人材を輩出しています。

COLUMN

1度の試験で専攻を越えた受験が可能に

医学系研究科では、医科学専攻修士課程、障害科学専攻博士課程(前期2年の課程)、保健学専攻修士課程の試験を共通化し、1度の試験で専攻を越えた形での出願・受験を可能にしました。この実施方法により、受験生は、第1希望を医科学専攻のA分野等、第2希望を障害科学専攻のB分野等、という形で出願することができます。また、4年制大学卒業者を対象とした修士課程・博士課程(前期2年の課程)の3専攻の定員が合計で92名と全国屈指の規模での学生募集を行うっており、本試験に出願することにより、受験生の皆さんには柔軟な選択肢が提供されます。

障害科学専攻

Disability Science

博士課程(前期2年の課程)
修学年数 2年(標準修業年限)
入学定員 28名
選考方法 英語・小論文・面接試験等
入学時期 4月
修了要件 30単位以上
学位 修士(障害科学)

博士課程(後期3年の課程)
修学年数 3年(標準修業年限)
入学定員 11名
選考方法 英語・口頭試験等
入学時期 4月
修了要件 16単位以上
学位 博士(障害科学)

保健学専攻

Health Sciences

看護学コース
放射線技術科学コース
検査技術科学コース

修士課程 ※平成22年度より博士課程(前期2年の課程)
修学年数 2年(標準修業年限)
入学定員 24名
選考方法 英語・小論文・面接試験等
入学時期 4月
修了要件 30単位以上
学位 修士(看護学又は保健学)

平成22年度より新設

博士課程(後期3年の課程)
修学年数 3年(標準修業年限)
入学定員 10名
選考方法 英語・専門科目・面接試験等
入学時期 4月
修了要件 16単位以上
学位 博士(看護学又は保健学)

医科学専攻

Medical Sciences

修士課程
修学年数 2年(標準修業年限)
入学定員 40名
選考方法 英語・小論文・面接試験等
入学時期 4月
修了要件 30単位以上
学位 修士(医科学)

博士課程(医学履修課程)
修学年数 4年(標準修業年限)
入学定員 130名
選考方法 英語・専門試験・面接試験等
入学時期 4月・10月
修了要件 30単位以上
学位 博士(医学)

研究室紹介

看護学専攻

家族・発達精神看護学

日下由利子・三谷綾子



家族・発達精神看護分野は、家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。小児看護学、精神看護学を核にして、特に家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院とのunificationや、学校、地域、医療機関などの連携のもとに活動をしています。また大学院では、小児看護の高度看護専門職者である小児看護専門看護師(CNS (Certified Nurse Specialist) in Child Health Nursing)の育成も行っています。と、大学院ホームページの分野紹介には紹介されています。

わたしたち二名はこの分野の中で小児看護専門看護師の育成課程を専攻し、神経症や軽度発達障害、悪性疾患の子どもと家族へのメンタルヘルスカアを中心に行っている塩飽教授の下で指導を受けています。二年間の課程の中で週のうち一日は、東北大学病院で「小児看護外来」という日本ではまだ珍しい看護特有の外来で、遊戯療法を通して発達障害や不登校のこどもの看護実習を行っています。また、塩飽教授からスーパービジョンをうけて実習内容を深めています。わたしたちの研究室は

学校を離れても仲がよく、黒一点で塩飽教授を女性六人で囲み、小児看護談義に楽しく花を咲かせています(↑飲み会が多い比喻)。日々こどもたちと向き合いながら小児看護の学びを深め小児看護専門看護師の取得に向けて勉学を進めるとともに、小児看護のまだまだ多様な研究のテーマの可能性の中から研究内容を模索中です。

周産期看護学

菊池綾子



私が大学院進学を選択した理由は、周産期における家族形成と家族支援について看護研究をしていきたいと考えたからです。周産期とは、妊娠二十二週から出生後七日未満の出産前後の期間のことを示し、周産期看護では、妊産褥婦と胎児新生児、そのパートナーと家族を対象としています。現在私は、大学院で学生を助産師としても勤務しております。

勤務する上で、家族背景が複雑なため精神支援を必要としている妊婦様がいること、核家族やシングルマザー等の家族支援が見込めないために多くの育児支援が必要であること、経産婦とその家族に対し看護支援が不足していること等、家族に関連した事象に対し今後研究が必要であることを強く感じています。そしてその中で、現在研究テーマを絞り込んでいる状況です。

周産期看護分野では、全学年で学

生が二名と少数ではありますが、先輩後輩ともに仲が良く、自分たちの研究に関して相談出来る環境です。また、分野内での卒業生がおらず未開発な部分もありますが、自分がしたい研究を積極的に出来る環境だと感じています。周産期看護に関心のある方は、ぜひ一度教室にお立ち寄り下さい。

老年保健看護学

平尾由美子



本学科の前身である医療技術短期大学看護学を卒業し、早二十五年になります。当時、看護教育は大半が専修学校で行われており、短大さえも少ない状況でしたが、いつかは大学化するのだろうと希望を抱いていました。看護師免許取得後は、出産や育児などに伴う生活の変化に合わせて自由に働かせていただいていた。キャリアという面では不利なことはありませんが、細々とでも看護という仕事から離れずに済んだのは、幸運だったと言えるでしょう。

ようやく宮城県内に大学看護学部ができ、編入したのは四十路を過ぎてからでした。学生に専念する二年間を楽しんだ後再就職し、現在は仕事をしながら大学院に通っています。老年保健看護学分野に在籍し、研究は、高齢者の移動の自由を保障する足の健康に関連し、足爪の白癬症の実態調査から始めることにしました。仮説を検証することの困難さを感じながらも、多くの先生方や院生の仲

間に支えられ、ぜひいたく環境の中で勉強できることに感謝しながら毎日過ごしています。

一般的には、老年期という、身体的機能の衰えというイメージが強く、ケアされるべき存在として映るかも知れません。しかし実際は、英知と創造性を持ち、柔軟に生きていく高齢者が数多く存在し、こちらがケアされていることがほとんどです。高齢者をめぐる課題は山積していますが、年を重ねることが誰にとっても幸福であるよう、看護の分野から支援していく力をつけるため、研鑽を積んでいきたいと考えています。

放射線技術科学専攻

先端放射線診断技術学

吉田 礼



今回は、私が在籍している先端放射線診断技術学分野の町田研究室を紹介いたします。当分野の研究対象であるMRIは近年、非造影での血管の描出や機能画像、心臓へのアプローチなど日進月歩の領域であり、幅広く深い知識が求められます。

町田研究室は、研究室の長である町田好男教授、修士2年の根本くん、社会人学生修士1年の私の3名で、同じ分野内の他の教授や大学院生と連携して、活動しています。

町田先生は、2年前に東芝メディカルシステムズから赴任してきたということもあり、特にMRIの画像再構成、アプリケーション、画像工

学に造詣が深く、研究室では、主にMRIの画像評価、撮影シーケンス、そして、最近話題の死亡時画像病理診断(AI)の基礎的検討などの研究にも取り組んでいます。

もし、MRIに少なからず興味を持っていただけたのなら、ぜひ町田研究室を訪ねてみてはいかがでしょうか？

画像診断技術学

二科 孝志



臨床医学において、X線画像やCT画像などの画像診断は、近年の診断機器及び診断技術の開発、発展により、極めて重要になっていきます。私たちの研究室では、石橋忠司教授、齋藤春夫教授のもと、様々な臨床画像に用いられる幅広い診断技術について研究しています。

主な研究テーマは、「乳がん検診の精度管理」、「腹部臓器の画像診断や低侵襲性治療に必要な医療器材の開発」、「多列型CT(MDCT)画像を用いた胸部大動脈瘤の3次元有限要素モデルの構築と破断予測システムの開発」、「Autopsy Imaging (AI)」などがあります。

また、研究に取り組む一方で、学会での発表や病院での実習、診療放射線技師としてのアルバイトなども行い、実際の臨床現場についても学んでいます。そして、臨床現場での経験や、低侵襲性インターベンショナルラジオロジーの検査技術学、三次元画像処理法などの映像情報処理

技術学、コンピュータ診断支援技術学、医用ネットワーク技術学などの研究を通じて、高度医療専門職に就くこと、さらに自ら研究、開発が可能になることを目的としています。



医用画像工学分野

水口 早苗



医用画像工学分野では、CTやMRIなどの医用画像に対して工学的手法によりアプローチをすることが目的であり、X線CTの原理的部分などを研究しています。また、可視光を使ったイメージングも行っていて、細胞の中のカルシウムイオン濃度を可視化することにより脳の神経細胞どうしの信号のやり取りなどがリアルタイムで見られるようになります。

扱っているテーマは、以下の2つに大別されます。

①医用画像における様々な画質問題を解明して良質の画像を得る実用的手段を研究・開発。

②医用画像あるいは、さらに光学手段などによるバイオイメージングデータを用いた神経情報処理機構を解明。

わかりやすく言い換えると、より正確に生体情報を反映する画像を得ること、およびそうして得た画像から医療や生命科学に有用な情報を発掘・加工することです。

具体的な研究テーマの例を挙げると、CT画像のアーチファクトを緩和する処理法/CTの低被曝化を実現する画像再構成法/時系列情報を含んだイメージングデータを用いた脳・神経系の機能解析/イメージングデータから情報を抽出するための画像処理法の研究などがあります。

検査技術科学専攻

感染分子病態解析学

山本秀輝



私たち感染分子病態解析学分野では、川上和義教授、石井恵子准教授のご指導のもと、細菌・真菌・ウイルスに対する自然免疫機構を解明するとともに、感染症の発症及び予防との関連について、そしてウイルス感染によって引き起こされる関節炎の発症病態について研究を行っています。

川上グループでは、細菌や真菌について、TLR9などのToll様受容体やDecitin-1などのCタイプレクチン受容体の感染免疫における役割、お

よびそれらの受容体のシグナル伝達分子として知られているMyD88やCard9といった分子の免疫応答における役割などについて、in vivo・in vitroの両面から解析を行っています。また、肺炎球菌やクリプトコッカス感染防御におけるNK細胞やγδT細胞の役割について遺伝子欠損マウスを用いて解析しています。

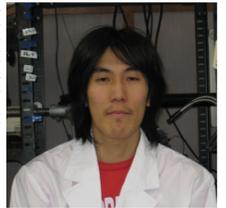
石井グループでは、小児に伝染性紅斑などを引き起こすパルボウイルスB19について、B19の細胞内での増殖・潜伏過程および炎症惹起機序を分子レベルで明らかにすることを目的として、レセプターを持ちある程度の増殖を許す赤芽球系細胞と、レセプターは発現していないが関節リウマチの炎症組織でB19タンパク質の発現が確認されている免疫系細胞におけるウイルス動態の解析を行っています。

研究室では、毎年研究の成果をさまざまな学会で発表しています。また学会の合間に観光したり、秋には芋煮会を行うなど、研究室内でもさまざまなイベントがあります。



臨床生理検査学

服部大貴



私は、検査技術学コース・臨床生理検査学分野において三浦昌人准教授のもと、ラット心室筋を用いて不整脈の研究・実験をしています。大学4年の卒業研究の時から三浦先生の研究室でお世話になり、今ではラットを麻酔し心臓を摘出するなどの動物実験の技術を身に付けることもできました。現在、高カリウム液を心室筋に灌流することで虚血のモデルを作り、不整脈の発生にどのように関与・影響しているのかを明らかにすることを目的として、張力や膜電位、カルシウムの測定を行っています。

普段の生活としては、実験を週3回行い、それ以外の日はデータの解析をしたり、論文を読んで勉強したりしています。それに加えて、同じ臨床生理検査学分野である進藤千代彦教授の研究室と合同で週1回、論文の抄読会をしています。

論文に関しては、読んでいくなかで自分の知識の無さや英語力の無さを痛感しています。また、大学では勉強しないようなより高度で詳細なことをやっているの、自分の興味ある分野だからかもしれないですが、もっと勉強しなければと感じています。

このように、大学院は大学では経験できないような、またそれ以上の研究・実験をし、より高度な知識・技術を身に付けることができると思います。自分が興味を持っていること

や今後になんかそんなことをしつかりと考えると、見極めたうえで、進みたい分野・研究室を決めるべきであると思います。そうすれば将来、この大学院で得た知識・技術というのは必ず自分自身にとってプラスになると思います。



分子機能解析学

植松智有希

私は医学部保健学科を卒業後、大学院の保健学専攻修士課程に進学しました。分子機能解析学分野において、林真一教授の指導のもとヒト乳癌のホルモン療法耐性のメカニズムの解明をテーマに、将来の新しい検査法の開発を目指して研究を行っています。具体的には、乳癌細胞を用いてさまざまな薬剤感受性を調べたり、たんぱく質の分析などの実験を行っています。私は大学院時代の卒業研究からこのテーマに興味を持ち、研究をはじめさせていただき、大学院でも継続して研究を続けています。そのため、普通よりも半年も長くこのテーマに携わり、その分たくさん

実験をして研究を進めることができるともよかったです感じています。

また、研究室のメンバーは大学院生だけではなく様々な方がいるため、わからないことを相談して助けていただいたり、知らなかったことや違った考えを聴くことができ、良い刺激になっています。

大学院の生活が始まって約1年がたち、本当にたくさん経験をさせていただきました。日々の生活は実験を中心として取り組んでいるため、実験手法は少しずつ身につけてきていると思いますが、まだまだ必要な知識が足りないことが多く、常に勉強不足を感じています。それでも、知らなかったことを知ったり新たな発見があったりするため、面白さを感じながら充実した毎日を送っています。

新任先生のご紹介

今年度も沢山の先生方が本学に就任されました。ごあいさつをいただきましたのでご紹介させていただきます。

看護学専攻

がん看護学分野 教授

佐藤富美子



私は昨年九月に、山形大学から保健学専攻「がん看護学分野」に着任しました。着任と同時に単身赴任生活を終え、福島仙台間片道約一時間半の新幹線通勤を始めました。当初

は福島駅までの不慣れた運転と地下鉄から大学までの長いウォーキングで疲労困憊の毎日でしたが、最近ではメタボリック気味だった体型も少し絞れ、周りの風景を楽しむ余裕もできました。

私の専門はがん看護学、成人看護学です。主な研究テーマは、乳がん患者を対象とした術式選択や術後上肢機能障害とクオリティ・オブ・ライフに関する一連の研究です。現在は、乳がん術後上肢機能障害予防改善に向けた介入研究を東北大学病院の医療スタッフの協力を得て進めています。また、がん看護学・成人看護学の教育方法に関する研究も行っており、今年度は「がん患者の語り」の映像を教材として実際に授業で活用し、評価を行っています。

看護基礎教育では成人看護学原論、成人慢性期看護方法論の授業を担当しています。将来看護職をめざす学生に臨床看護学の魅力を伝え、患者および家族の方々への共感性を育む教育を目指しています。また、修士課程のがん看護分野では、今年七月に専門看護師教育課程の申請を予定しています。二〇〇七年に策定された「がん対策推進基本計画」で看は、がん医療従事者の養成が重点的に取り組むべき課題になっています。

二〇一〇年一月現在、全国のがん看護専門看護師百九十三名中、東北地方は五名(宮城三名、福島二名)と少なく、その養成を推進する教育環境の整備が必須です。今後はがん看護専門看護師教育の実績がある福島県立医科大学看護学部とも協働し、がん看護学教育のさらなる充実とがん専門看護師の生涯学習教育プログラムの作成を課題にしていきたいと思います。将来がん看護専門看護師や認定看護

の資格取得を考えている方、がん看護について学びたい方は、毎月第四月曜日にご参加して下さいます。参加者とのディスカッションを通して自己の看護実践を内省し、または新知見を蓄積する場としてご利用頂きたいと思っております。皆様との交流を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。

緩和ケア看護学分野 教授
宮下光令



平成二十一年十月に東京大学から緩和ケア看護学分野に着任しました宮下光令です。緩和ケア看護学分野とはこの十月に新設された分野で、主にごがん患者さんを対象として苦痛をやわらげるためのケアや終末期の患者・家族が抱える問題を解決することを目的としています。

出身は千葉の木更津というところ。海の近くで育ったので魚が大好きです。趣味は釣りで、早く暖かくなって海釣りに行くのを楽しみにしています。生まれてから昨年まで東京と千葉を行ったり来たり生活をしていましたが、仙台は町も便利で気候もよく大変気に入っています。人も優しく、大学の内外でいろいろな人に親切にしてもらっています。もう都会の雑踏には戻りたくないと思っております。これからは仙台で落ち着いた生活を営みながら、教育・研究に励みたいと思っております。多くの方がご存じないと思います。が、仙台というのは緩和ケアの臨床

をするにはとてもいいところなので。東北大学などのがん診療連携拠点病院という拠点となる施設も多く、緩和ケア病棟も三つあり、在宅ケアも充実しています。患者さんが望んだ場所でも過ごすためのインフラと人的資源が豊富で、この資源をいかに有効に利用することで日本や世界のモデルになる可能性を秘めた地域だと思います。それが東北大学を希望した一番の理由でした。

私の専門は緩和ケアの評価や調査に関するのですが、臨床的な課題にも関心があり、大規模な調査や評価システムづくりをすすめる一方で、臨床からのフィードバックがあるような課題にも挑戦しています。

保健学科の学生さんも卒業するとがん患者さんのケアに携わることには少なくないと思います。身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛の緩和、治療方針や療養場所などの意思決定、コミュニケーション、家族ケア、看取りなど様々な問題に直面して奮闘していることと思います。本分野ではこれらの未解決な問題に対して研究を行い、今後の臨床に還元できるような成果を出すことを目指しています。また、がん看護専門看護師(CNS)養成も行っています。新しい分野で不安もあるかもしれませんが、もしご関心がありましたら、いつでも相談に来てくださいます。大学院の受験についても歓迎いたしますが、それ以外にも臨床上の疑問や問題点などがありましたら、ご相談いただければ、微力ながら解決に向けてご協力したいと思います。

東北大学に来て半年経って将来を期待できる優秀な学生さんが多いと感じています。緩和ケア看護学はこれからの学問です。緩和ケアについて

と一緒に学習や研究を行い、この分野を日本の緩和ケア看護学の研究拠点に育て上げていきたいと思っております。ぜひ一緒に新しい分野をつくっていきましょう！

ご寄稿のお願い

保健学科同窓会では、同窓会新聞を発行しており、多くの方々から好評を得ています。現在、編集委員会では次号発行に向けて準備を進めています。

そこで、同窓生の皆さまからのご寄稿を募集することになりました。内容は特に問いません。随筆、紀行文、趣味などお気軽にお寄せください。お寄せいただく際は、以下の要項をお願いします。

- 内容 随筆、紀行文、趣味など
- 原稿 2500〜4000字程度
- 宛先 〒980-8575
仙台市青葉区星陵町二番一号
東北大学医学部保健学科同窓会

人事異動

放射線技術科学コース
平成二十二年十月一日
●千田浩一
放射線検査学分野准教授↓同分野教授



同窓会費納入のお願い



卒業生 各位
東北大学医学部保健学科、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻は、学生及び教職員相互の親睦と大学生活の向上、発展を図ることを目的として、平成二十年三月の医学部保健学科第一期の卒業を期に「東北大学医学部保健学科同窓会」を設置し、同窓会新聞等の事業を行っております。

平成二十二年第一号の同窓会新聞を発行しましたので、同封致しまでも構いませんので、ご意見・ご感想がございましたら、下記の同窓会事務局までご連絡下さい。

なお、学部または修士課程卒業後の同窓会費の徴収につきましては、いずれかの卒業時に一万円を一括納入して頂き、終生会員とすることになりました。同封の振込み用紙を用いてご送金していただけますよう、お願い申し上げます。

●連絡先 上記の連絡先
同窓会役員一同

なお、保健学科および保健学専攻の同窓会ホームページは来月四月開始を目指して調整中です。

編集後記

締切直前までドタバタしてしまいましたが、多くの方のお力添えで新聞を完成することができました。ご協力して下さった皆様方ありがとうございました。

看護アセスメント学分野
永井 瑞希

前回に引き続き、編集に携わらせていただきました。今回も、前回と同様たくさんの方のご協力があり、新聞ができあがったと実感しています。ご協力してくださったみなさま、本当にありがとうございました。

看護アセスメント学分野
千葉 春香

みんなで作ったこの同窓会新聞が、春の訪れとともに卒業生の皆さまと旅立つことができるのをうれしく思います。皆さまかわいがってやってください。

先端放射線技術学分野
水口 早苗

来年度も同窓会新聞の編集委員に任命された高根です。今年度と同様、卒業生の皆さまに保健学科の最新情報をお届けできれば幸いです。至らない点も多いかと思いますが、精一杯務めさせていただきますので、今後とも宜しくお願いたします。

画像診断技術学分野
高根 侑美

たくさんの方々制作にご協力いただき、素晴らしい新聞になったと思っております。今回は、忙しくあまり制作に携わることができず、他のメンバーにたくさん助けていただきました。次回は、今回以上に皆さまにとって価値ある情報を発信していくことに尽力していきたいと思っております。今後とも宜しくお願いたします。

内分泌応用医科学分野
柴崎 瑛子

修士課程卒業者の進路状況

